

村上税務署長賞

『税に生かされてる』

新潟県立村上中等教育学校 3年
野澤 蘭 さん

私には五歳離れた兄がいる。兄は障害持ちだ。後遺症だそうだ。父曰く、兄が生後一か月のときに突然具合が悪くなっただらしい。病院に連れて行ったところ、最初は風邪だと言われたそうだ。ところがその後容態が急変し、再び病院へ行き診察を受けると、急性脳症と言われたとのこと。

そこから集中治療が行われ、今に至る。後遺症が残ってしまったものの、今の彼は元気そうだ。

当時の治療費はいくらだったのかと父に聞くと、「三万円。」と一言。あまりの安さにとても驚いた。「なんでそんなに安いのか？」と聞いたところ、「税金のおかげだ。」と言った。実際の治療費は二〇〇万から三〇〇万円だったそうだ。それも一週間で。しかし、その額のほとんどが税で賄われたという。

私はそのとき初めて税金の大切さや重要さを実感した。私たちが普段何げなく支払っている税金は、わりと身近な所に使われている。例えば、警察や消防、教育や医療といった私たちが人間らしい生活をするために必要な公共サービスなどだ。ゴミ処理



や工事にも税金が使われている。もし自分の家が火事になったとき、本来ならば消防を要請し消火活動を行うが、税金制度が無い場合それが出来ない。なぜなら莫大な費用がかかるからだ。インターネットの記事によると、火災出動一件当たり約二〇〇万から四〇〇万円の費用がかかると言われている。消火活動が長時間になる場合、費用が四〇〇万円以上かかる可能性もあるのだ。税金制度がある場合は、費用は国が全額負担してくれるが、無い場合は、全額自分で支払わなければならない。そんな大金支払うことができるのだろうか。否、きっとほとんどの人が支払えず、自分の家が燃えていくのを見ていることしかできないだろう。

このように、税金があるのとないのとでは日々の生活に大きく違いがある。私は、今ある生活は決してあたりまえのものではなく、税金によって成り立っていることに気づかされた。だが、税金の負担は重い。「税金が無くなれば国は崩壊する。分かっているけど、税金を払おうとは思わない。でも義務だから仕方ない。」と母は言う。母のように、税金に不満を持っている人は少なくないだろう。しかし、その税金で救われた命がたくさんあるのだ。現に私たち家族もそうである。あなたが払った税金でどこかの誰かが救われている。そう考えたら少し気持ちが軽くなるのではないだろうか。

きっと私の父や母、そして周りの大人達も誰かを救っているのだろう。私はそんなカッコいい大人になりたい。